

編 集 後 記

昨今のコロナ感染拡大の再燃の状況におきましても、精力的に論文等を投稿していただいた皆様並びに論文の査読を快く引き受けていただいた先生方に心から感謝申し上げます。

本号は総説（ミニレビューを含む）3編，原著論文2編，解説論文1編並びに最近のトピックス5編から成り，ボリューム満点のものになりました。巻頭の総説ではSarita Giri先生（歯周歯内治療学分野）から上皮のバリア機能におけるフラボノイドの役割，Ariuntsetseg Khurelchuluun先生（臨床口腔病理学分野）からはミツバチ花粉のアンチエイジング効果並びにRezon Yanuar先生（薬理学分野）からは唾液タンパク分泌におけるPKCの役割についてそれぞれ紹介されています。原著論文では，山田隆介先生（歯科矯正学分野）から骨格性I級抜歯・非抜歯ボーダーライン症例の矯正歯科治療における独自の評価法が示されています。また，Durga Paudel先生（臨床口腔病理学分野）の原著論文では，更年期女性にみられる口腔等の灼熱感や乾燥状態と細菌叢の変化との因果関係が示唆されています。解説論文では，川村尚彦先生（歯科矯正学分野）から新しい非接触型3Dスキャナによる顎矯正手術前後の軟組織変化の評価法について，実際の症例に基づいてわかりやすく解説されています。さらに，最近のトピックスでは，Nisrina Ekayani Nasrun先生（組織再建口腔外科学分野）から骨の成長や骨折の治癒機転と全身栄養状態との関連（2編），村田 勝先生（口腔再生医学分野）からは歯の移植術に関する最新の歯根膜保護装置，Jia Tang先生（同済大学）からは新たな歯髓幹細胞の発見と臨床応用への可能性，及びDedy Ariwansa先生（臨床口腔病理学分野）からは精神活動と口腔粘膜疾患との関連性を取り扱う新領域の精神病理学についてそれぞれ紹介されています。いずれも大変興味深い内容ですので，是非ご一読ください。

コロナと人類の世界大戦は，長期戦の模様を呈しています。しかしながら，医療の新たな展開と人間本来の生存能力の覚醒によって，人類はこの難局を乗り越えていくことでしょう。その時，再び自由が我々に訪れるのではないのでしょうか，いつの日か。今後も，歯学雑誌のさらなる充実に努めて参りますので，引き続きご支援ご協力を賜りますようどうかよろしくお願いいたします。（石井 記）

次号（第41巻，第1号）の発行は令和4年6月30日です。

投稿原稿募集の締め切りは令和4年3月31日必着と致します。期日厳守の上，ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は，2021年第40巻，第2号の巻末をご参照ください。